



三井環

三井環

元大阪高等検察庁公安部長

脇は甘かったと言えますが、
別に失敗したとは思っていません。
死ぬときに『ああ、楽しい人生だった』と
思えば、それでいい

2010年1月までの1年3ヵ月間、服役。出所後は、裏ガネ問題や取調べ等の全面可視化について、雑誌や講演などを通して発言している。

(「通販生活」2010年夏号)

三井環さん(インタビュー時に65歳。以下特にことわらない)は元検事である。57歳だった2002年4月には大阪高等検察庁の公安部長だったが、「身内」の大阪地検特捜部にいきなり逮捕された。

なぜ逮捕されたかといえば、検察庁の裏ガネ問題を本格的に告発しようとしたからである。対して検察庁は、組織を裏切る者は牢にぶち込んでやるとばかり、「電磁的公正証書原本不実記載」「不実記録電磁的公正証書原本供用」「詐欺」「公務員職権濫用」と、わけの分からない逮捕容疑で三井さんを逮捕し、勾留した。

05年2月大阪地裁は懲役1年8ヵ月、追徴金22万円の実刑判決を下した。三井さんは納得できず、最終的には最高裁まで争ったが、08年8月最高裁は上告を棄却。三井さんは敗れ、10年1月17日に満期を迎えるまで1年3ヵ月間、静岡刑務所で服役した。

映画『真昼の暗黒』56年は残虐な取り調べでウソの自白を強要され、有罪判決を受ける話だが、三井さんは最初から最後までウソなどはいわず、ただ真実を訴え続けたが、裁判所は検察に義理があるのか、聞く耳を持たず懲役刑を科した。ある面『真昼の暗黒』以上の暗黒だろう。多くの冤罪事件や「国策捜査」を通して、国民は警察や検察が必ずしも真実に忠実でなく、正義の守り手でもないことに気づいているが、三井さんの場合には裁判所さえ

救いの手を差し伸べてくれなかった。

もちろん逮捕されたことで検察庁を懲戒免職され、退職金ももらえなかった。検察官というサラリーマン生活をまっとうできず、誇りも生き甲斐もメタメタにされた。

『真昼の暗黒』以上の経験をした三井さんに「人生の失敗」というテーマをぶつけること自体、酷な話だが、とはいえ捜査のプロが同僚のプロに一瞬の隙を突かれて敗れたともいえる。ここはカラッと「どこが失敗したと思いますか」と聞いてみたい。

三井 今、私はこう考えとるんですよ。現職時代の人脈と、逮捕された時点からの人脈は180度違います。そういう観点から見ると、人生が2回あったと。別に失敗したとは思っていない。人生が2回あって、死ぬとき「ああ、楽しい人生だったな」と思えれば、それでいいと思っています。

どうやれば、こういう目に遭わずにすんだか。脇が甘かったとは言えますね。2001年11月以降、現職のまま実名で検察の組織的な裏ガネづくりを公表しようと思断したんです。大手新聞社、週刊誌、月刊誌、テレビ、あらゆるところと接触しました。政治家とも接触して、最終的には菅直人さん(当時財務大臣)が国会で質問することになった。当時私は、公安部長室の直通電話でそれらの人たちと話したし、公安部長室で

会ったこともあるので、そういう面から法務・検察当局に情報が抜けたと思います。

当時の三井さんには「公安部長の俺を検察庁はやれるわけがない」といった思いもあったのだから。権力を持っている人は自分の力を過信しやすいというから。

三井 公安部長だからやられんという考えは全く頭になかったですね。何でかいいうたら、マンションを買うために融資を受けたという件でやられるとは、夢にも思っていなかったから。

大阪地検が逮捕の手がかりとしたのは、三井さんが私的に競売で落札したマンションである。そのマンションに居住しているように装い、虚偽の転入届を区役所に出し、登録免許税の軽減措置を受けた、たまたまそのマンションに暴力団の元組長が居座っていたが、中継ぎの男が登場して三井さんにマンションを買い戻したいと持ち掛けた……こうしたことが前記の罪状に結びつけられたのだ。

老後の生活のためにマンションを十数軒購入

競売物件はワケが多く、安く入手できそうだし、検事ならワケありでも恐れなくてい

い、と一応はいえるかもしれない。が、「季下に冠を正さず」という。検事たる者、紛らわしい事に手を染めない方がいい。競売物件に手を出さなかったなら、逮捕の手がかりを与えずにすんだかもしれない。三井さんは競売での落札が趣味で、十数室もマンションを持っているらしい。

三井 鹿児島地検の検事だった85年、交通事故の被害に遭ったんです。道路を横断してたら乗用車にはねられ、ボンネットに乗ったまま200メートルも運ばれ、車が歩道の樹木に衝突して、私は道路に振り落とされたらしい。全身打撲で10日間意識不明。牛乳びん8本分の輸血をして、そのときC型肝炎になった。

その後、93年に高松地検の次席検事になるんですけど、それまでの間は酒をやめ、ずっと治療し、インターフェロンを打っていたら肝炎のウイルスが消えたんです。肝臓は完全に治ったけど、インターフェロンの後遺症で糖尿になった。

そういうこともあり、自分の前途を考え、全ての仕事は70歳で止めよう、それ以後は家賃収入で食べていこう思うた。不動産には保険をつけてます。万一、私が死んでも保険でローンの残金が払える。不動産を買うようになったのはこういう動機です。

今でも十数件の物件を持っているのか。持っているなら、出所した後も生活は成り立つ。

三井 逮捕されて退職金も何もありませんよ。不動産はローンを組んで買ってるから預金もあまりない。拘留所にいるとき、家族の生活もあり、3件ぐらい売った。残りは今でも持ってます。ただ、70歳まではまだローンを組んどるから利益が出ない。70過ぎて全部払い終わると家賃が全部収入になります。

競売で落札したら、たまたま元暴力団組長が居座っていた。そのことが逮捕の遠因になったのではないか。競売は蛇が棲むか鬼が棲むか。素人が安易に手を出せる分野ではない。

三井 結果を見ると、そうですね。ただ、裁判所で物件の説明書を見たら「現状空き家」と書いてるんですよ。私だって人が住んどったら、買いません。実際、それまで競売で落としても、紛争になったことは一度もありませんでした。

たとえ暴力団のような人が住んでいても、落札した者が検事だったなら、相手はおとなしく引くと見ていたのか。

三井 そういう考えはなかったですね。空き家だから大丈夫と思って、こちらは買うから、ちょっと物件明細書でおかしいと思ったら買わない。ややこしいやつを買ったら、後でしんどいからです。

不動産十数件の所有は不動産業の域に達している。奥さんも不動産の購入を応援していた

のか。一般人にとって不動産は人生に一度あるかないかの買い物だから、たいていは奥さんに相談する。

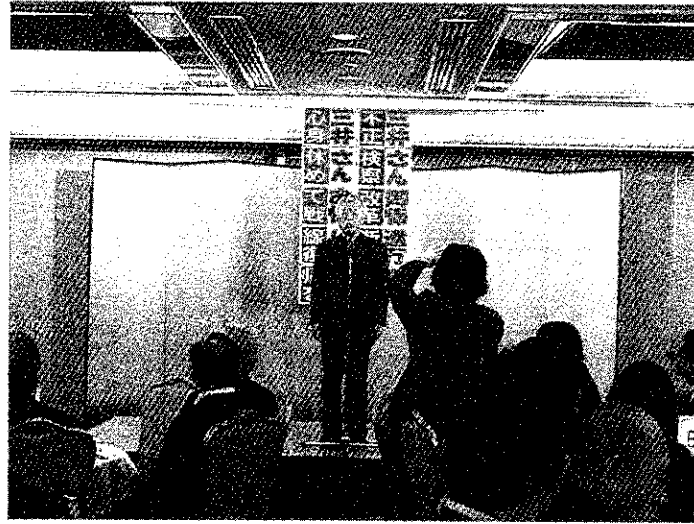
三井 仕事のこともいっさい話さないから、家内には何も言わない。不動産購入に反対するとか、そういうことはなかった。

夫婦に会話がなかった？

三井 会話はあります。まあふつうの夫婦だと思いますよ。これまで離婚もせずに来た。逮捕されても、家族は全面的に支援してくれたし。ただ、まるで前兆がなかったから、逮捕の直後は何がなんだか分からなかったと言っていましたよ。

家族には寝耳に水の驚きを与えたわけだ。検事の仕事は家族にも明かせない秘密を扱う。その面では職務の基本に忠実だったといえそうだが、いささか没交渉の度が過ぎている。ただ、娘さんが弁護士をやっているから、逮捕や収監などには、ある程度想像がついたかもしれない。

三井 子どもは4人おって、一番上は男、2番目が女で結婚している。3番目が女で弁護士や。4人目は男で、まだ法科大学院の学生やっとなる。末っ子はもともと法学部の学生やっつたんですけど、勉強はいっさいしてなかった。それが、私が逮捕されてから司法試



静岡刑務所を出所後の会合で挨拶をする

験の勉強を始めましたわ。私の件で反発した面もあるのですかね。次女は私が拘留中に司法試験を通った。私は「司法試験の勉強せえ」なんていっさい言わなかったけどね。

三井さんは子宝に恵まれている。巻き込まれた事件が、家族を結束させたのかもしれない。

ただ、裁判では家族に対して不体裁な事実も明らかにされた。三井さんが落札したマンションを元暴力団組長が買い戻したいと言いつつ、その使者となった男がいた。三井さんはこの男を信用し、衛星放送の事業資金として200万円を貸した。男は

年利5%の利子を払うと言ったが、三井さんは断わった。三井さんと前後してその男も逮捕されたのだが、彼は利息がわりに三井さんに女性の接待を2度したと供述。三井さん自身も女性と一緒に大阪天王寺区のホテルに入ったが、酩酊で何もできず、30分ほどで出たと答えざるを得なくなった。

三井 いやあ、まあ、そりゃ女房に対して体裁悪いですわ(笑)。本当、私の不徳の致すところですよ。だけど、女房は面会に来て、このことは話題にもせんかった。それに2度の接待というのはウソですわ。これはその男の運転手の運転日報によって、全くの虚偽、つくりごとだと証明できている。

要するにどう転んでも真相は私的接待だから、収賄になるはずはないんだけど、裁判官は私を有罪にしたかったんやろ。私的接待でもあるが、プラス職務に関する接待もあると併存する形で有罪にしたわけですよ。

職務に関する接待とは三井さんが仲介の男に情報を与えたという意味か。公安部長は、暴力団関係者が喜ぶような情報を扱っているのか。

三井 情報なんてない。職務もない。裁判官の論理は、仲介の男は元暴力団組長とくっついている人物だから「暴力団関係者」になる。暴力団関係者から接待を受けたら、イ

コール職務に関するという認定の仕方です。裏付ける証拠がない。私はマンションに居座っていたという元組長に終始一度も会ったことがないし、だいたい彼が元組長だったことも知らなかったし、仲介の男が暴力団関係者という認識もなかった。

検事が暴力団の組員、もしくは元組員やその関係者に会ったら職務だという考え方があるとすれば、教訓は、やはり「李下に冠を正さず」で用心するしかない。検事の交友関係はごく狭く限定され、社会常識も通用しないような偏頗(へんぱ)な人間に仕上がる。その点、三井さんは枠にとらわれない生き方をして、最後、罪に問われた。

テレビで裏ガネ問題を話す直前に逮捕される

ここで疑問が湧く。三井さんはなぜ内部告発に踏み切ったのか。彼は88〜91年まで高知地検の次席検事をつとめたが、このとき検察庁の調査活動費が幹部の遊興費に使われている事実を初めて知った。調査活動費が最大だったのは98年度で、検察全体で5億5000万円。その後2000年度2億1500万円、08年度7500万円と減少してきたという。

三井さんが匿名を条件に告発に踏み切ったのは01年1月発売の雑誌『噂の真相』の記事が最

初だった。大阪地検の加納駿亮検事正が高知地検検事正時代に調査活動費を不正に流用し、遊興費に充てていたという内容だ。調査活動費は中小の地検で年間400万円、東京地検で3000万円、大阪地検で2000万円が平均だったという。

最初は怨みを晴らすという私憤に発していた。三井さんは加納氏と事件処理をめぐって意見が対立し、その後、加納氏のせいで人事において不利な扱いを受けた、そういう加納氏が順調に昇進の道を歩むのは許せないと思っただのだ。

三井 だと01年11月以降、私憤はどうでもよくなった。公憤に切り替わったんです。当時、『週刊文春』と『週刊朝日』が私からの情報に基づいて大々的に報道してました。その報道が、一気にほかのマスコミにも波及しかねないような状況だった。

他方、法務省は加納駿亮検事正を福岡高検の検事長にすると上申しました。森山(眞弓)法務大臣は、加納検事正が裏ガネづくりで刑事告発されておっただんで難色を示し、なかなか内示が出なかった。そこで、当時の検察幹部は「けもの道」に踏み切ったわけ。最悪の選択です。

というのは、検察幹部らが麴町の後藤田正晴(元自民党衆議院議員、故人)事務所を訪ねて、このままでは検察がつぶれると泣きを入れたというんです。後藤田さんはこれを「けもの道」と名づけた。当時は小泉内閣でしたが、結局、加納検事正に対する刑事告発は「嫌疑なし」ですまされた。検察内部で裏ガネ使いは周知の事実だったけど、それを真っ白にしてしまった。それが1点と、検察がけもの道、つまり政権を利用した。

法務・検察は内閣に大きな借りができたわけで、貸し借りの関係ができたら、もう時の政権に対する捜査はできません。こうしたことを聞いて、私は現職のまま実名で裏ガネづくりを公表しようと決断した。「けもの道」以後は、義憤からあらゆるマスコミと接触して、02年4月19日の金曜日に「告発スケジュール」ができた。

内容は、朝日新聞東京本社版が1面トップで報道して、社会面では私が一問一答形式で答える。それをもとに民主党の菅直人さんが法務委員会で追及する。追及の過程で私を国会に参考人招致。裏ガネ問題を証言し、国会内で記者会見して、その後、私が検事のバッジを外すというものです。それで、22日の月曜日に「ザ・スクープ」というテレビ番組で、キャスターの鳥越俊太郎さんを相手に私が答える形で収録を行なう予定だった。ところが、その直前に私が逮捕されたというわけです。

検察庁はKGBやCIAも真っ青の、思いきった弾圧を加えるものだ。三井さんは組織の裏切り者とされた。



三井 環

三井 組織として裏ガネづくりの維持と、みずからの保身からですよ。仮にこれが公表されていたら、検事総長以下約70名の検察幹部が懲戒免職になる。国民からも刑事告発される。使った金は国に返還せないけません。現職だけじゃなしに裏ガネを使ったOBにも及びます。そんなことになれば、検察機能は一時麻痺します。そういう状況を回避するために私を逮捕したわけです。

三井さん自身、裏ガネとの関わりはどうだったのか。返せといわれたら、返すのか。

三井 そら、返しますよ。高知地検での次席検事時代が3年、高松地検で3年、通算6年間、私は裏ガネの帳簿の決裁をしてきた。検事正にお供して接待もしてきた。だから刑法でいうたら私は共犯者です。高知、高松とも調活予算は年間400万ぐらいですが、全部裏へ回って遊興、飲食、接待、ゴルフ、マージャンなどに消えています。

それは、検事正の一身専属で出るもんで、次席検事は使えない。例えば、職員が亡くなったたり、あるいは結婚したりします。検事正の場合は裏ガネから包みますが、次席検事は自分の財布のおカネから包む。調査活動費は、次席検事も事務局長も使えない。年間400万円を検事正が1人で使えます。1ヵ月に換算したら35万円程度。自分の給料以外に35万円あったら、飲み食いも昼飯代も十分行きます。給料は全部余りますよ。

接待交際費が必要なら予算化して正々堂々と使えという論がある。インチキ領収書ででっち上げて調査活動費を流用するような姑息なマネはするな、と。

三井 いや、予算化するといっても、多くが遊興飲食、ゴルフ、観光、麻雀という類ですよ。こんなものは予算化できない。つまり調査活動費という原資をなくして、自腹を切ればいいんです。上司が部下を連れて行って飲食する。それを上司が自腹で払う。どこの会社でもやってることじゃないですか。要らないものはなくす。調活費はもともと税金だから、二次会で40万円も使うというでたらめがまかり通る。

なるほど。役人の乱費はすべて血税の乱費なのだから、民間企業の乱費とはもともと出どころが違う。心して勤儉節約に努めるのは公僕の義務であり、調活費の乱費など論外なのだ。

今後のテーマは裏ガネと取調べ等の可視化

三井さんの今後はどのようなものか。検察には煮え湯を飲まされた。リベンジしなければならぬ。

三井 裏ガネ問題は検察庁の幹部に頭を下げさせ、使った金を国に返させる。それが目的です。私の活動は東京じゃないとできない。東京にはいろいろな団体があるし、出版社も東京ばかりやから、関西じゃ全然できない。家族の住まいは関西だけど、東京に支援者もいて拠点も設けられた。なので、平日は東京で活動を始めてます。

今後の見通しはどうか。検察庁が裏ガネ問題で国民に謝罪する見込みはあるのか。

三井 一番簡単なのは、千葉景子法務大臣(当時)が指揮権を発動する。これで法務省、検察庁が国民に謝罪して、使ったカネを返す。そうしたらすぐ済む話です。私は塀の中から提案しとるんだけど、今のところなかなかようやれん。これは行政上の指揮権発動であって、捜査上の指揮権発動じゃない。だからまったく問題ないんです。

冤罪を防ぐ趣旨から取り調べの様態を録音・録画する「可視化」が主張されている。可視化すべきは単に取り調べの様態ばかりか、法務・検察の会計についても可視化、透明化すべきだろうか。

三井 取調べの可視化だけじゃだめ。押収証拠品の目録と残記録(検事が公判で論告した残りの記録)の開示もしないと。つまり、自分たちにとって都合の悪い証拠や記録を検察側は押収しても、一切裁判には出さない。だから、証拠等の全面開示がないと冤罪はなくな

らない。今まで、例えば死刑判決が後に無罪になったような事件では、検察側の証拠隠しが暴かれたケースが多いんですよ。だから、取調べを可視化するだけでなく、押収品目録と残記録の全面開示をセットにした法律が必要なんです。

それと検察制度も裁判制度もアメリカの制度を参考にして、もう一遍、根本的に作り直さないかんと私は思うんですよ。民意を反映するならアメリカの制度がいい。裁判官も検事も選挙で選ぶ。選挙が一番民意を反映します。

三井さんは拘留所や刑務所の塀の内側でたっぶり法務行政や司法制度について考えをめぐらしたにちがいない。現場も知悉し、主張することにはさすがに説得力がある。

しかし三井さんの変転を見るにつけ、内部告発は割に合わないと思う。偽装食肉のミートホープ事件で内部告発した会社幹部は「告発して私にいいことは何もなかった」と述懐している。

三井 告発した人は誰でもそうですよ。雪印食品の牛肉偽装を告発した西宮冷蔵の水谷洋一社長にしても、告発したおかげで会社は休業になってしまった。いいことは何もありません。

だが、ばい菌を殺すには日に晒すのが一番とアメリカの司法関係者が言っている。事実の

暴露が国民の利益につながる。現に三井さんの告発もあって検察庁の調活費はすでに最盛期の1割5分程度まで減額された。検察幹部は頬かぶりでもやり過ぎしたが、それでも三井さんの告発はじわじわ効いている。われわれは告発に踏み切った人を大事に遇すべきだろう。少なくとも「裏切り」などと前時代の村人の陰口は繰り返さない。組織に対して後ろ足で砂を引っ掛ける。大いに結構ではないか。

溝口敦 著

人生の失敗

転んでもタダじゃ起きない

人生の失敗

転んでも タダじゃ起きない

溝口敦 著

- 島田洋七
- 三井環
- 伊波洋一
- 後藤政志
- 平松邦夫
- ガッツ石松
- 仲雅美
- 水谷洋一
- 鳩山友紀夫
- 寺脇研

ばあちゃんの影響で、おれ、失敗しても、まず笑う。失敗で喜劇やし、喜劇と悲劇は背中合わせから何が起きても笑う

脇は甘かったと言えますが、別に失敗したとは思っていません。死ぬときに「ああ、楽しい人生だった」と思えれば、それでいい

当選できなかったこと自体は失敗だと思いませんが、知事選出馬が、沖縄にとっても私にとっても大切なことだと思えます

福島第一原発の事故が起きて、いらぬやうな立てこもられなくなると、黙っていたら必ず後悔すると思ふ。表に出て発言し始めたんです

私のやり方は間違ってたかと思いますが、派手さという点では、橋下さんと比べられると及びませんでしたね

私が人とちと違ったのは、転んでもただでは起きなかつたことです。負けの中で何かを自分の糧にしてらんじます

人生山あり谷ありと言うけど、山も楽しいし、谷も楽しい。賞しきりも恵まれたからこそ楽しいと思ふ

雪印食品「牛肉偽装」を告発した現代のドンキホーテ

結果的に失敗しましたが、首相として米國に對等な関係を求めたのが当然のことであったと思ふ

ゆとり教育が批判されて私は國賊と言われたけど、部下たちは支持してくれ、それが救いになりました

「人生の失敗」は豊饒です。汲めども尽きないヒントや人生の教えが詰まっています。自分の経験ばかりか、他人の経験からも学べる人を賢者とすれば、賢者になる近道が人の失敗談に接することです。——溝口敦「まえがき」より



9784822817732



1920095014005

ISBN978-4-8228-1773-2
C0095 ¥1400E

定価1400円＋税
七つ森書館



島田洋七
漫才師

三井環
元大阪高等検察庁・公安部長

伊波洋一
元宜野湾市長、現参議院議員

後藤政志
元原子炉格納容器設計技術者

平松邦夫
元大阪市長

ガッツ石松
タレント、俳優、
元プロボクシング世界チャンピオン

仲雅美
歌手、俳優

水谷洋一
西宮冷蔵社長

鳩山友紀夫
元首相、東アジア共同体研究所理事長

寺脇研
映画評論家、
元文部科学省大臣官房広報調整官

